

【3】吉井地区ってこんなまちです

(吉井地区の紹介)

平成17年に佐世保市と合併した吉井地区（旧北松浦郡吉井町）は、市の北部に位置し、北は松浦市、西は江迎町と佐々町、東は世知原地区があります。

国見岳を源にする、県内最長の河川である佐々川は、吉井地区を流れて佐々町の海に注いでいます。

吉井地区の面積は27.26km²で、中央には標高301mの牧の岳がそびえ、緑豊かな山系には、有名な御橋観音と自然にできた石橋があります。また、御橋観音には天然記念物も混じった多種類のシダも群生しています。

松浦鉄道が地区の西部を走り、それに沿って通る国道には、中央部に松浦市へ通じる県道分岐点と、世知原地区へ通じる県道分岐点があります。旧市内とは数本の国県市道で結ばれていて、妙観寺トンネルの開通以来、県北部の交通往来が頻繁になっています。

土地は肥沃で、農産業に適し、農産物の中でもイチゴ、メロン、イチゴワインは名産品です。

また、2万年前の旧石器時代の遺跡である福井洞窟をはじめ、直谷城跡、コウモリ岩洞穴、春日神社の古式お蔵入れなど、貴重な遺跡も数多く残っています。現在、合併後初めての福井洞窟、直谷岩陰遺跡の調査も始まっています。

人口は約6,000人、65歳以上の高齢化率は24.4%となっています。

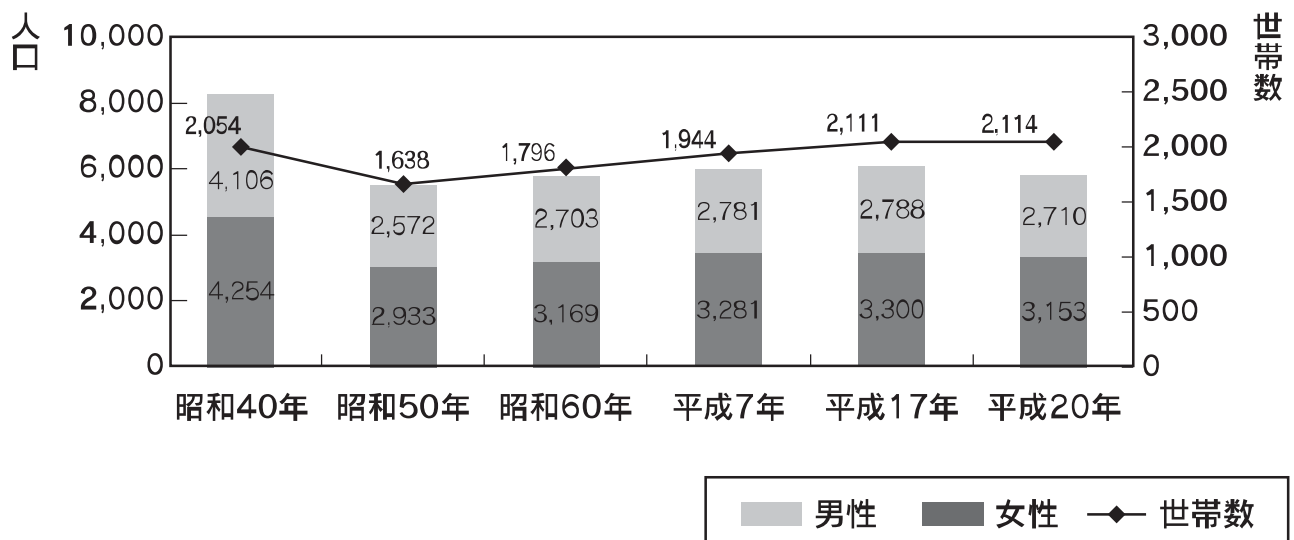
佐世保市と合併する前は、花は「ひまわり」、鳥は「うぐいす」、木は「しいの木」が町のシンボルとなっていました。

〔佐世保市における吉井地区の位置〕



(吉井地区の人口推移)

※いずれも10月1日時点の統計資料



(吉井地区“わがまち自慢”)

吉井地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

福井洞窟

福井洞窟は、旧石器時代から縄文時代にかけて数万年の長い間、人類が居住地として利用した洞窟です。

昭和11年の社殿改築の際に採掘された、洞窟の床面から、土器、石器、人骨等が発見されました。

その後、昭和35年から3次にわたり日本考古学協会西九州調査団による発掘調査が行われ、深さ約6m、16層に分かれた地層から、3万年以上前の先史遺跡が確認されました。

昭和53年には、国の史跡として指定されています。



御橋観音

昔から平戸八景の一つに数えられた御橋観音は、吉井町が誇る名勝です。

御橋観音寺の境内を通り清閑な庭園の奥、高さ20mのところ、長さ30m・幅4mの第三紀砂岩層からなる二条の天然石橋が、空に架かる天の浮き橋のように架かっています。

石橋の下に祀ってある石仏の周辺や岩肌には40数種類のシダが茂って幽玄な雰囲気をかもしだし、前庭の11面観音を祀る堂宇が園内の調和を保っています。



五蔵池

町の南部に連なる五蔵岳は自然豊かなすばらしい所です。そのふもとにある五蔵池にはハマダイコンが群生しており、5月にうす桃色の花を咲かせています。雨期に池いっぱい水を溜める光景は、青空を映し出す鏡のようです。

また、五蔵池には、アキノレ（ニレ科の落葉高木）も群生しています。アキノレは、本州中部以西の川辺に生育していますが、ほとんど群生していないことから、大変珍しいと言われています。



ポットホール公園

平成3年5月に開設した全長500mのポットホール公園には、無数のポットホール（河床の岩石などにできる円筒状の穴）が見られます。この穴は河川の上流や中流の、流れが早く岩盤のあるところに出来やすいようです。

佐々川の流れる吉井町一帯には、広範囲にわたって大小無数のポットホール群が存在し、県下で最も数の多いところとされています。特に、公園のある中学校前の校門橋から400m上流までの間には、640余りのポットホールが確認されています。



お蔵入れ

毎年12月10日に行われるこの行事は、霜月祭り、おかん祭りなどとも呼ばれ、村内の通称「水元（水源地）」に鎮座する氏神「吉田大明神」の拝殿での神事後、当番のヤド（毎年当番が変わり、施主ともいう。）で行われます。

この行事は、五穀豊穡、家内安全の祈りが無事に成し遂げられたお祝いの祭りで、お供え物を結んだ籠に縄を取り付けて男女に分かれて引き合います。男たちは必ず女たちに負けなくてはならないなどの決まりがあるなど、素朴でほのぼのとした雰囲気の中に、ユーモアもあります。

昭和55年には、「国選択無形民俗文化財」に選択されています。

